

「アンデレとフィリポ」

2021年11月26日

フィリポは、「めいめいが少しずつ食べたとしても、二百デナリオンのパンでは足りないでしょう」と答えた。弟子の一人で、シモン・ペトロの兄弟アンデレが、イエスに言った。「ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、それが何になりましょう。」(ヨハネ福音書6章7節～9節)

フィリポのもとに来て、「お願いします。イエスにお目にかかりたいのです」と頼んだ。フィリポは行ってアンデレに話し、アンデレとフィリポは行って、イエスに話した。(ヨハネ福音書12章21節b～22節)

ヨハネ福音書は、アンデレが主イエスに「来なさい」と言われ、一晚、主イエスの話を聞いて、この方こそメシアだと直感し、翌日、兄ペトロの所に走り、「私たちはメシアに出会った」と告げ、ペトロを主イエスのもとに連れて来たとして記している。アンデレは真っ直ぐに受け取り、真っ直ぐに伝える純真な性格であった。フィリポも主イエスに「私に従いなさい」と召し出され弟子になった。彼はナタナエルに出会い、主イエスを「私たちは、モーセが律法に記し、預言者たちも書いている方に出会った。ナザレのイエスだ」と紹介している。アンデレは直截に「メシアに出会った」と告げているのに対し、フィリポは、律法、預言者を持ち出し、持って回った言い方をしている。彼は間違うことを恐れ、回りくどく説明する小心な人だが、自分の知性には自信を持っていた。

主イエスの周りに五千人もの人が集まっていた。主イエスはフィリポを試し、「どこでパンを買って来て、この人たちに食べさせようか」と問うと、彼は即座に、「めいめいが少しずつ食べたとしても、二百デナリオンのパンでは足りないでしょう」と答えた。彼は現実を正確に把握し、的確な判断ができる知性を持っていた。現実だけを直視する人は、「だから、駄目だ」と否定的な応答しかできない。この時、アンデレは「ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。けれども、こんな大勢の人では、それが何になりましょう」と口を挟んでいる。五千人に對し、5つのパンと2匹の魚では、話にならない。彼もそのことは知り、「それが何になりましょう」と言っているが、このような桁の違うことを臆面もなく言い出すのがアンデレである。アンデレの申し出を主イエスは祝福し、五千人が食べて満腹する奇跡を表されたと伝えている。現実を厳格に認識し否定的になるフィリポと、計算できずに、突拍子もないことを言い出すアンデレは対照的である。

過越祭が近づいた時、ギリシア人が祭を見たいとエルサレムに上って来た。すると、主イエスの噂に溢れていた。彼らは主イエスに会って見たいと思い、フィリポに「お願いします。イエスにお目にかかりたいのです」と頼んだ。フィリポは、ユダヤ人は異邦人とは口を利かない関係にあったので、主イエスはギリシア人と会ってくれるかどうか迷った。そこで、アンデレに相談したところ、彼は迷うことなく、フィリポを連れ、主イエスにギリシア人の面会希望を伝えている。フィリポは伝統に拘り、迷う人で、アンデレは異邦人を受け入れる主イエスの開かれた心を知っていた。彼の心も開かれていたのである。

最後の晩餐の時、主イエスは、「あなたがたは父を知っており、また、すでに父を見たのだ」と言われた時、フィリポは「主よ、私たちに御父をお示してください」と食い下がっている。フィリポは見えるものしか受け入れられない現実主義者であった。その彼も、復活の主イエスに出会い、迷いと不信を超え、主イエスの福音を宣教する者に変えられた。